

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400624		
法人名	特定非営利活動法人長寿会		
事業所名	グループホームひまわり21長洲		
所在地	熊本県玉名郡長洲町折崎633番地5		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成28年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念を基に介護に取り組む事を旨とし研修や自己学習に努めている。法人内の各事業所でお互いに刺激しあい、情報を発信し合って職員間の成長にも繋げたり、職員の成長は利用者により良い介護に繋がり、安心、安全を担保出来ている。当ホームは2ユニットありそれぞれ独立した日常生活を送りながらも、その時期に応じた行事を2ユニット合同で行うことにより刺激を受けたり、新しい交流の輪もホロがるなどその後の新しい交流の輪も広がるなど、その後の日常生活にも良い変化をもたらす効果を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「尊厳と権利の保証」「安全な住環境の整備」等の法人理念が職員に根付いており、「家族として暮らす」ことが職員間に受け継がれている。入居者の高齢化・重度化により身体状況が幅広くなりつつある中、職員の質の向上に力を入れている法人の姿が見られた。1階、2階それぞれのユニットで日常生活を過ごすことが多い状況であるものの、入居者と共に地域や法人の行事に積極的に参加したり、中学生の体験授業の受入れや徘徊模擬訓練への参加等、地域の認知症啓発に積極的に参加実施を行い、地域との関係継続・構築に努めている。今後、ますます個別ケアが必要となるであろうが、利用者との関わりを大切に、個々の力を引出し、生きる力を与え続けるケアの継続に期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として①ご利用者の尊厳と権利を損なう言動はしません②人間性と専門職としての自己研鑽に努める③快適で安全な住環境の整備に努める④住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせる地域福祉の整備に努めるを掲げ目標としている	法人理念をもとに「家族として暮らす」ことをホームの目標と設定し、利用者、家族、職員に機会毎に伝えている。法人理念と共に設定された目標は職員のケアの実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し地域の清掃活動や地域行事には積極的に参加している、地域の方からの野菜や、お花など差し入れも頂いている。敬老会や防災訓練等にも声かけをし参加していただいている	入居者の高齢化や身体状況により難しい状況になりつつある中、職員は地域との日常的な交流に努めている。地域行事への参加は、訪問受入れはもちろん、認知症啓発の拠点としての役割も大きい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験学習の受け入れや地域行事に参加することにより、認知症を地域の方に広く理解して頂けるように努めている「子供110番の家」の引き受けや、物忘れ相談窓口の依頼も受け実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成18年9月の奇数月の第3木曜日13時から開催しているひまわりの現状報告、災害時の避難誘導などの意見交換を活発に行っている。防災訓練への地域消防団の参加、盆踊りへの参加、どんどやへの参加など活発な意見交換をしている	運営推進会議は定例化しており、ホームの状況報告の他、防災訓練、行事と組合せる等の工夫をしている。家族代表の参加もあり、行政・家族・ホームの意見交換の場となっている。	家族の来訪も多く入居者とのコミュニケーションも良く見られますが、会議のもつ役割も大きいものです。家族代表以外への参加案内を続け、家族の参加に繋がることへ期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場へは度々伺って情報提供や、研修にも積極的に参加している、運営推進会議や、研修会を通して顔を合わせることも多く良好な関係作りが築けている。事業所の空き状況などの情報提供も行っている	運営推進会議への参加だけでなく日常的にホームからの情報発信を大切にしており、良好な関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議で身体拘束や、虐待について事例検討を行い、職員の振り返りを行っている。身体拘束がもたらす弊害等にしっかり認識し、全職員が身体拘束の無いケアを実践している	身体拘束についての研修や事例検討を行い、ほとんどの職員参加の上で知識向上に努めている。職員全員が共通認識を持つことで職員各自が気づきを意識し、ケアの実践につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の年間計画に盛り込み毎年学習会を行い理解を促している。内外の研修会にも積極的に参加し、毎月の職場会議の場でも、虐待について話し合っている		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画に盛り込み毎年学習会を行い理解を促している管理者が市民後見人養成研修受講しより理解が深まり職員へ伝達する幅が広がった。必要に応じて家族等にも周知を図っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間がかかる事を説明、了承を得て行っている説明の途中で分からないことはないかの確認をしている、終了後も「何かありましたら電話でも、来られた時でも結構ですので聞いてください」と声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対して不満、苦情、意見等があった時は記録し対策の検討をしている、直接職員に言えない場合は苦情受け付箱を設置したり、苦情解決のポスターを玄関に掲示している	家族に運営推進会議や日頃の面会時等に意見要望を聞く機会を設け、苦情受付箱も設置し、意見を出しやすいようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第4水曜日に職員会議学習会を行っており意見や提案などを聞く機会を設けている、朝礼や日常業務の中でも話しやすい環境作りを努めている運営者には毎月第3火曜日に管理会議が行われており法人の状況や問題点等を話し合っている	毎日の朝礼や日常業務で職員の意見提案は出しやすい環境を整えている。法人での全体会議、ホームでの職場会議が行われ、意見提案を検討し反映に繋げる環境も整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に全体会議を開催し経営報告や処遇改善など職員への周知を図っている、雑誌や専門誌を購入したり資格取得に向けた支援をしている。勤務年数や資格取得時に時給アップを行っているパート職員から常勤職員へ昇格した者もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の管理者を中心に年間教育計画や教育内容を検討し法人全体での研修を定期的に行っている、入職時はオリエンテーションや事業所内研修を一年以上は外部研修、3年以上は主任研修や認知症実践者研修参加を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や市町村主催の研修には積極的に参加し他事業所との交流を図ることで情報の共有化、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こまめに声かけを行い、聴く機会を多くつくり訴えたことに精一杯対応し信頼を得られるよう努力し一日でも早くホームに慣れて頂けるようにしている、表情の変化には特に注意して様子を見ている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面接時には誠意もって対応している訴えられた事には精一杯努力して応え家族の信頼を得られるようにしている、「何かありませんか」と話しやすい雰囲気を作り、要望、悩み、等の思いをくみ取り安心感を得て頂けるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所以外にも相談に応じている、必要に応じて法人内外のサービスの説明を行い選択の幅を広げられるよう努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	連休明けなどで出勤すると「あら、きつたね」と言われると職員はうれしい気持ちになっている、一緒に暮らしていると思えてくる、入居者も職員も家族だなという気持ちがある	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで生活しながらも行事への参加や外出、外泊支援を通して家族との絆を継続できるようにしている。年間の行事の参加や、運営推進会議の参加、などして頂いている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人等の面会、昔からのかかりつけ医への往診、受診は心の拠り所になっており、関わりのある方たちと連携をしながらこれからも関係性が継続できるように支援している	家族友人の面会も多く、家族協力による関係継続の支援に努めている。地域行事に参加できる人数も減ってきているが、法人内事業所やユニットの往来、ボランティアの来訪等で新しい関係も出来てきている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルにならないように円滑な関係を保てるように支援している場面に応じて職員がパイプ役になり会話を仲介するなどして孤立したり無いうように支援している	

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の了解を得られれば病院への面会や通夜、葬式に出席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報や日ごろの会話や本人の表情・言動など、及ぼ家族の要望等を基に職員間で繰り返し検討し、本人らしい、笑顔のある生活、暮らしを支援している	職員は日頃の暮らしの中で表情や会話を大切にし、意向の把握に努めている。特に1階では重度化が見られるが、笑顔で生活ができる様に家族・入居者の思いや言葉を記録に残し情報を共有してケアに繋げている。	現状では入居者の意志表示が困難になりつつある様です。職員は関わりを多く持ち、入居者本位の生活の支援と潜在能力の引き出しを更に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話、職員との会話、家族面会時の会話等からそれとなく聞き取りを行っている、全職員がその情報を周知し日々のケアに生かせるようにケアプラン担当者が法人既定の情報シートに記載している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、食事時間、排泄、入浴、レクリエーションなど声かけはするが、拒否される時は無理をせず、時間がずれても一人ひとりのペースで過ごして頂いている、日々の記録やカンファレンスにより状態把握が出来る		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族に意向を聞き「自分らしく生きる」「地域で暮らす」を視点を盛り込むように努力しているケアカンファに参加できない職員の意見も取り入れる為毎月の職場会議の中でケアカンファの時間をつくっている必要時本人や家族の参加をお願いすることもある	入居者・家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。日々の記録による状況変化の把握だけでなく、職場会議時にもカンファレンスを行い、必要に応じてプラン見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスに、ケアプランと生活日誌の欄があり日々全職員が記録の記入・読み込みを行うことで情報の共有が出来ている。気づきを記録することでケアの見直しや改善につながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師が健康管理を行い、夜間も電話相談が出来るようになっている協力医院の医師も相談しやすく月2階の往診や電話相談で指示・助言を頂いている入居者の(大・小)のニーズに可能な限り柔軟に対応するように努めている		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん・ボランティアさん・区長さん・老人会長さんには行事参加や運営推進会議参加、話し相手など来所してもらっている消防署も防災訓練時立会など助言など頂いている、中学校からは職場体験で毎年6月に2名来所、入居者も若い人との交流を喜ばれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医をお聞きし、同意と納得の上で協力医療機関に受診したり、かかりつけ医に受診したりしている職員が通院介助を行うが家族だけで通院する場合は情報提供書を持たせている、返事を受けケアに反映させている	現状では協力医による受診が多い。通院の際は職員が通院介助を行うが、病状を把握して頂く目的から家族へ依頼し協力頂いている。情報提供書により病院との連携を図り、状況を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤でおり入居者の日々の健康管理を行っている。常に報告・連絡・相談を行い異常の早期発見に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の情報提供を病院側に行っている、定期的に空室情報を報告し、家族の希望があれば退院後にホームに戻れるような体制・連携作りを行っている。退院指導にも同席させてもらいスムーズに生活の場が移せるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について説明しているがその時期が予見された段階でかかりつけ医、家族、職員で話し合いを設け改めて終末期に向けたこれからの確認、共有している、ひまわりで最後をと希望された時は入居者、家族協力医療機関、ひまわりで話し合いを繰り返し行い、看取り介護計画書を作成している	希望があれば、自然のことと受入れ、かかりつけ医、家族と共に話し合い、できることを確認し、繰り返し連携をとりながら対応を行う。全職員が臨めるよう質の向上にも力を入れているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、看護師、応急手当普及員を中心に定期的に学習会を行うことで全職員に周知している年1回は救命講習を受講する機会を設けている応急手当普及員は2名いる。連絡網も一斉メールを整備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(3月・9月)には消防署・地域住民の協力を得ながら避難訓練をしている災害ごとのマニュアルを作成して全職員に周知徹底している、食料や飲料水は備蓄しており年2回の訓練時に賞味期限を確認して交換している	夜間を想定したマニュアルも準備し訓練も行っている。1階2階毎の避難経路も確立しており、実践に沿って訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・プライバシーの保護は定期的に学習会に取り入れている記録書類は鍵のかかる事務室の棚に保管している、利用者に対して特に言葉使い・表情・態度(目線も含めて)には常に意識して対応している	学習会の開催だけでなく、入居時には写真撮影・利用の許可を受けたり、事例検討勉強会でテーマに挙げる入居者には家族に承諾を得る等、日頃より意識を持ち、個々に対応を行っている。	職員会議の際にも議題にし、職員辞職後の言動ふるまいに及ぶまでの指導もされる等、高い意識が見られます。今後も継続されることを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活習慣や嗜好・興味等を十分に把握し本人の意向を引き出せるよう努めている。日常生活の中で、意思決定する場面をつくっているレクリエーション参加も「参加しませんか」と声をかけて拒否される時は無理をしない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態やペースを把握できており、生活リズムが崩れないように声かけを行い、無理することなく1日を過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	奇数月の第2月曜日に訪問美容師のカットを利用している好みを尊重しながら行っている希望される時は近所の美容室に出掛ける事もある、常に身綺麗であることを基本としている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化が進み調理の段階からの参加が少なくなってきた、食器洗いや食器、拭きを一緒にすることが多い、調理時にはカウンター越しに声をかけながら食事に関心を持って頂くよう心がけている	参加できる入居者が少なくなってきたが、「出来ること」を大切にしている。1階では食事介助も多くなり、個々の状況に応じ提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食べる量や好き嫌いも把握しており、体調、摂取形態、嚥下状態、体重の増減状態に応じて最も摂取しやすい環境を整え可能な限り事故摂取が出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、義歯の方の洗浄も行いポリドント使用の方も洗浄している、必要に応じて訪問歯科を了解された方は依頼している		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンに合わせ、布パンツ、リハビリパンツ、尿漏れパンツ、ポータブルトイレ、普通のトイレの使い分けや、声かけ、誘導して出来る限りオムツに頼らない排泄を心がけている	入居者の排泄パターンを全職員が把握し、状況に合わせて対応している。オムツに頼らない生活を送ることができるよう、声掛け誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼ることなく排便があるように、こまめな水分補給、3度の食事に汁物をつけ、体操、日光浴、腹部もみ、などをを行い自然排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や、回数はある程度決めているが希望されれば体調に影響がなければ対応している、1対1の関わりの中でゆっくり、くつろげる楽しいひと時になるように又安全やプライバシーへの配慮も忘れないように支援している。	入浴は週2回を基本とし、希望や状況により個々対応している。拒否については職員の声掛け等の工夫により、また、身体状況により安心な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調を見ながらレクリエーション、散歩、など声かけを行い参加を促している、夜間に覚醒される方に対しても眠りを強要することなく、危険の無いように見守り支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容が誰でもすぐ分かるように、薬情報は1冊のファイルに閉じ確認できるようにしている。個人個人の薬トレイをつくり飲み忘れ防止をしている、薬の変更時等は申し送りノートに書き周知させている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や・仕事歴を把握して一人一人に合った役割、楽しみを支援している。(カラオケ・調理・洗濯量など)昔を思い出した記憶を呼び起こす支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望や体調に合わせ、また家族の協力も得ながら外出支援を行っている。天気の良い日は散歩や行事の下見の外出などしている。車椅子の方も外へ出て日光浴などしている。他事業所や法人の行事などにも出掛けている。	入居者の高齢化・重度化により全体での外出が難しい状況であるが、家族の協力も得ながらの外出や地域行事への参加等、支援を行っている。ホームの環境が良く、四季を感じながら外気浴も出来、日常的に外気を感じることができる。	

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の力量に応じて、個人管理している方もある、ほとんどの方は、現在お金の所持はなく家族管理となっている。お金を持っている方は1週間に2度家族が来られるので確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも使用できる。本人に代わり家族に手紙を書いたりしている。家族が遠方の方には、毎月の請求書を送るときに状況報告を同封している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に配慮しており季節感のある花や、掲示物を飾るなどしている。中庭へ出るスロープを利用して日光浴や気分転換を図っている	中庭を取り囲むように、廊下や居間があり外気浴や洗濯干し等の日常の活動がスムーズに行われている。二階の火災避難所も十分に考えて設置されている。畳のコーナーやソファ等を活用して思い思いに過ごすことができる。	入居者の集いの場である食堂兼居間は、採光や広さが十分であるにもかかわらずこし室内の臭いに課題があるようです。机の配置や清掃時間帯、入居者の衣服のチェック等工夫されることを望みます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性を把握しており、畳コーナー、テレビの前などお誘い対応している。環境整備を行い安全を確認している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ライターやマッチ以外は持ち込みの制限はなく仏壇や、タンス、など様々な物を持ちこまれている。荷物は使い慣れたものを持参されるように声かけている、フローリングや、畳の部屋に、ベット、布団など本人に応じた居室を心がけている。	入居者のこれまでの習慣や生活のし易さにより、フローリング・畳の居室が準備され、使い慣れた荷物が持ち込まれている。レイアウトも入居者の状態に合わせ、心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ひまわり21長洲

作成日 平成28年 11月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	室内に臭気がこもり来客等に不快さを与えている。気づきの無さや連携不足のため臭気の原因究明も疎かになり十分な個別ケアや環境作りが出来ていない。	職員間で十分な連携を図り、個別ケアを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士声かけを密に行いケア内容の確認をする。(1日毎の更衣・陰洗の徹底。) ・尿臭、便臭に敏感になり、臭気ある際にはすぐにバット類の確認・衣服の交換を行う。) ・トイレ使用後の清掃、フロア内の換気・清掃をこまめに行う。 	1週間
2	4	運営推進会議の出席メンバーが固定してしまっており、家族の参加も少ない。	運営推進会議への参加を家族に促し、より周知徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族来訪時の声かけを行う。 ・玄関先に運営推進会議のお知らせを掲示する。(案内及び議事録等) *今までは議事録のみをファイリングして掲示しており見づらさもあった。) ・会議の中で発言を促し、会議への参加意識を持っていただく。 ・行政も参加されるので幅広く情報の共有が出来ることを伝え参加を促す。 	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。